令和７年度長野県公立高等学校入学者選抜の実施結果について

Ⅰ　入学者選抜制度について（高校教育課）

アンケート実施　① 公立高等学校 79 校
② 郡市中学校長会長 14 地区

１　前期選抜の募集枠の拡大について

【高等学校の主な意見】（前期選抜実施 62 校）

・　募集の観点に応じた目的意識のある生徒が多く志願した。(22 校)

【中学校の主な意見】（中学校 14 地区）

・　高校でやりたいことを明確にして挑戦できる機会が増え、良い取り組みである。（８地区）
・　学力検査の比重の高い後期選抜に挑戦を希望する生徒の枠が狭まる。（２地区）

【総括】

前期選抜の募集枠拡大については、中学校・高等学校ともに好意的に受け止められている。今後も学校の特色化を進める中で、各校が分かりやすい募集の観点を公表するよう努める。

２　前期選抜における学力検査の導入について

【高等学校の主な意見】（前期選抜実施 62 校）

・　中高接続の観点から、現時点での学力を把握する上で参考になった。(23 校)
・　受検生に基礎学力の重要性を認識させ、学習を促す良い機会となった。（９校）
・　記号の解答で、電子採点システムを活用することにより効率化が図れた。（４校）
・　簡単すぎて差がつきにくい（19 校）

【中学校の主な意見】（中学校 14 地区）

・　高校進学後の学習のためにも、基礎学力の定着を確認することは必要である。（８地区）
・　基礎学力の重要性を認識し、日々の学習意欲につながった。（４地区）

【総括】

学力検査の導入は、中学校・高等学校ともに肯定的に受け止められており、中学校では学習意欲の向上にも寄与している。また、中高接続の観点からも、その導入には意義があると考えられている。一方で「簡単すぎて差がつかない」との意見もあることから、前期選抜の学力検査は、中学校期における基礎学力の定着を確認することを目的としていることを改めて周知する。

３　後期選抜における紙上面接

【高等学校の主な意見】（紙上面接実施 48 校）

- 志望理由や将来の目標を見つめ直す機会となり、受検生の状況（中学校での様子、不登校の状況、入学後の目標、必要な配慮等）を多面的に把握できたことで、入学後の指導・支援に活かすことができた。（17 校）
- 紙上面接の意義が明確でない。（15 校）
- 受検生による過剰な事前準備の影響で、本人の人物像が把握しづらかった。（９校）
- 実施だけでなく評価にも時間と労力を要し、職員の負担が増した。（７校）

【中学校の主な意見】（中学校 14 地区）

- 志望理由を明確にする機会となった。（１地区）
- 紙上面接の意義が明確でない。（11 地区）
- 選抜への影響が不明確だ。（５地区）

【総括】

高等学校では、紙上面接を通じて受検生の状況を把握し、入学後の指導・支援に活用している。一方で、高等学校からは、紙上面接では受検生の本来の人物像が把握しづらいという懸念も示されている。また、中学校からは、職員の負担が増しているとの意見が寄せられている。

紙上面接の目的は、受検生の主体性や学びに対する姿勢を、受検生自身の言葉で確認することである。評価にあたっては、実績や前向きな取組のみを肯定的に評価するものではなく、それぞれの受検生なりの振り返りや抱負を評価するものである。欠席が多かった受検生が「私は休みが多かったため、学校の活動にはあまり取り組むことができなかったが、家庭で学習をした」と回答した場合でも、それを当該受検生の振り返りとして評価し、振り返りの記載があれば、その内容によって差をつけるものではない。

この趣旨を踏まえ、中学校においては特別な指導が必要ないことを改めて周知するとともに、紙上面接の質問内容及び評価基準についても改めて公表することとする。

４　入学者選抜全般について

【高等学校の主な意見】（高校 79 校）

- 電子採点システムは、採点業務の負担解消に役立った。より多くの学校での導入を望む。（５校）
- 再募集業務は実施期間が短く、事務処理等が時間的に厳しい状況である。受付最終日の締切時刻を 17 時より早めることはできないか。（７校）
- 紙上面接導入により、後期選抜の受付から諸注意までが 10 分短縮されたことで、検査開始まで受検生への連絡業務に余裕がなくなった。（５校）

【中学校の主な意見】（中学校 14 地区）

- 「新たな入学者選抜」に関する資料説明や動画が早期に提供され、大変助かった。（２地区）
- 今後も、生徒たちが安心して進路選択できる入学者選抜の検討を継続してほしい。（６地区）
- インターネット出願に関して、不安が広がらないよう、早期の情報共有を望む（３地区）

【総括】

令和８年度入学者選抜要綱及び選抜事務の手引の作成にあたっては、現場の意見を踏まえ、必要な修正を加えるとともに、インターネット出願についても、高等学校及び中学校等への適切な周知に努め、入学者選抜を実施する。

なお、将来的な入学者選抜の在り方については、引き続き検討を進めていく。

Ⅱ　学力検査の結果について（学びの改革支援課）

アンケート実施　① 中学校抽出 42 校
② 外部有識者各教科１名計５名

１　前期選抜における学力検査の結果について

(1)　出題方針

・学習指導要領に沿って、各教科の分野、領域における基礎的・基本的な内容をもとに出題した。
・出題の範囲は、各教科とも、概ね中学校３年生の 12 月までの学習となるように配慮した。
・出題形式は、すべて「選択式」とした。

(2)　平均点　〔受検者総数　5,891 人〕

検査Ⅰ（国語、社会、英語）	検査Ⅱ（数学、理科）
93.98（120 点中）	59.48（80 点中）

(3)　学力検査問題について（%）　〔中学校 42 校への抽出調査〕

		検査Ⅰ（国語、社会、英語）	検査Ⅱ（数学、理科）
①難易度	適当	36.5	48.8
	難しい	0.8	1.2
	易しい	62.7	50.0
②問題量	適当	67.5	71.4
	量が多い	2.4	2.4
	量が少ない	30.1	26.2
③出題形式	バラエティに富み、バランスもよい	80.2	88.1
	やや偏りがある	19.8	11.9

(4)　主だった感想・意見　〔中学校 42 校への抽出調査〕

・問題の難易度を上げたり、問題数を増やしたりしてもよいと感じた。(11 校)
・出題内容が基礎的・基本的で、偏りが少なく、様々な分野から出題されていた。(４校)
・中学校の基礎学力の定着を確認するための内容として良い問題であった。(３校)
・選択式の問題により、生徒たちは十分時間をかけて取り組むことができた。(２校)

(5)　分析と考察

・(3)①難易度及び②問題量の抽出調査結果から、出題方針に沿った問題であった。
・一方、問題の難易度を上げた方がよいとの意見があることから、前期選抜学力検査の出題方針の十分な説明が必要である。

(6)　今後の対応について

・中学校での基礎的・基本的な内容の習得を適切に評価するため、より良い出題の仕方について引き続き研究する。
・出題方針について、中学校・高等学校双方に丁寧に説明し、共通理解を図る。

２　後期選抜における学力検査の結果について

(1)　出題方針

・学習指導要領に沿って、各教科の広い分野、領域にわたり、その基礎的・基本的な内容をもとに出題した。

・各教科においては、知識及び技能とともに、思考力、判断力、表現力等の資質・能力が総合的にみられるように配慮した。

(2)　平均点　〔受検者総数　8,402 人〕

国語	社会	数学	理科	英語
59.54	70.04	58.45	54.36	59.23

(3)　学力検査問題について（%）　〔中学校 42 校への抽出調査〕

		国語	社会	数学	理科	英語
①難易度	適当	73.8	69.0	69.0	81.0	83.3
	難しい	4.8	2.4	4.8	16.7	11.9
	易しい	21.4	28.6	26.2	2.4	4.8
②問題量	適当	88.1	90.5	95.2	90.5	85.7
	量が多い	4.8	7.1	4.8	9.5	14.3
	量が少ない	7.1	2.4	0.0	0.0	0.0
③出題形式	バラエティに富み、バランスもよい	90.5	85.7	92.9	90.5	92.9
	やや偏りがある	9.5	14.3	7.1	9.5	7.1
④解答形式	適当	85.7	78.6	92.9	88.1	92.9
	選択式が多くて、記述・論述式が少ない	9.5	19.0	7.1	7.1	7.1
	選択式が少なくて、記述・論述式が多い	4.8	2.4	0.0	4.8	0.0

(4)　主だった感想・意見

〔中学校 42 校への抽出調査〕

【国語】▸文字量・問題数などバランスの取れた出題となっている。（３校）

▸漢字の読み書き問題の難易度や書写問題など、より深い知識や技能を評価する問題があってもよい。（３校）

【社会】▸現代社会のニーズや課題にあった出題で、生徒が社会を学ぶ意義を実感できる良問である。（２校）

▸知識を活用する問題や記述問題を増やしてもよい。（７校）

【数学】▸基本的な問題から応用問題までバランスよく出題されていた。（６校）
▸自分の言葉で根拠を明確に説明する力を問う問題があると良かった。（２校）
【理科】▸簡単な問題と難しい問題が適度に出題され、純粋な理科の力が試される問題構成である。（３校）
▸計算問題だけでなく、実際に生徒が行った実験や観察からの出題の充実を図ってほしい。（６校）
【英語】▸単純な英語力だけでなく、社会的な知識も必要とする問題が含まれており、思考・判断・表現力を評価できる良問が多い。（２校）
▸注釈が多く、難しい語句が多い。既習語で表現できる場合は未習語を避ける工夫を重ねてほしい。（４校）

〔外部有識者による評価〕

【国語】▸中学校での学習領域が網羅され、実際の授業での学びが想起できる出題である。
▸文章読解を適正な速度で行うための情報量については、引き続き研究が必要である。
【社会】▸今日の社会との関わりが意識されており、分野ごとのバランスが良い出題であった。
▸資料から読み取れる情報を活用して考えさせる出題形式の研究が必要である。
【数学】▸領域ごとバランスの良い出題であり、大きな改善点は見当たらない。
▸日常事象の考察に数学を利用する意図が見られる点が評価できる。
【理科】▸日常生活に即し、探究の結果を重視した設問構成が良い。
▸理科の本質を端的に問うような設問文や問題構成について、引き続き研究が必要である。
【英語】▸要点の理解を問う問題が複数あり、良問であった。
▸より自然な発話、英語表現で出題するための工夫が必要である。

(5)　分析と考察

・作問にあたっては、学習指導要領に基づき、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等を問う問題をバランスよく出題したことで、中学校で育成を目指す資質・能力を適切に評価することができたと考える。
・中学生にとって、日常生活に即し、実際の授業での学びの過程をもとに思考できる問題となった。
・思考力、判断力、表現力等を問う記述問題の出題方法を、さらに研究する必要がある。

(6)　今後の対応について

・育成を目指す資質・能力を適切に評価できる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスに一層配慮しながら、引き続き工夫する。